誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

次のステージで「学ぶ力」のために

早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田　貴一

「中学受験に向けた学習で身につく力」と聞くと、どのようなものが思い浮かぶでしょうか。「入試問題を解くための学力」はもちろん、その後の将来につながる「困難に立ち向かう姿勢」「最後までやり抜く強さ」など、中学受験を経験することで身につくものはさまざまあります。今回はそのなかで、『次のステージ』で学ぶ力」について書かせていただきます。

身につけたい「教わる力」

中学受験を終えたお子様にとっての「次のステージ」は、進学する中学校、あるいはその先に続く高校・大学、ということになります。中学校での学習が、量・スピード・求められるレベルなどにおいて、小学校とは大きく異なる、という点はおわかりいただけると思います。そのため中学受験に向けた学習では、単に入試で合格点をとるための知識や解法を身につけるだけでなく、「次のステージ」でも生きる学習への取り組み方を身につけたいものです。

小学3・4年生の保護者会では、「まず授業の受け方を身につけてください」とお話しさせていただいています。「授業の受け方」は、「教わる力」と言い換えてもよいかもしれません。まずは、小学校とは違う「密度」「速さ」で行われる進学塾の授業に慣れるところからです。そして慣れてきたら、「授業のなかで定着させること」を意識して授業を受けることが大切になってきます。「授業中にわからなくても、家でもう一度お父さんやお母さんに聞けばいいや」という意識を持っているお子様の場合、この「教わる力」に関しては低くなってしまう傾向があります。

親は「教える」のではなく「教えてもらう」

では、お子様の「教わる力」を伸ばすには、親はどのように接すればよいのでしょうか。低学年のお子様の場合、「集中してちゃんと聞いてきなさい」「授業中にしっかりと覚えてきなさい」と声を掛けるだけでは、なかなかできるようにはならないでしょう。私がおすすめしているのは、「親が教える」のではなく、逆にテキストを見ながら「この問題はどんなふうに解けばいいの？　教えて」と声を掛けて、お子様に説明させるという方法です。これを繰り返すと、お子様のなかに「授業をしっかり聞いて、帰ってお母さん（お父さん）に教えてあげなきゃ」という気持ちが生まれ、授業の受け方が大きく変わります。また、お子様が保護者様に説明することで理解がより深まり、定着するという副次的効果もあります。

自分に合った学習方法

「自分に合った学習スタイル」を早いうちにしっかりと身につけるという点も、「次のステージで学ぶ力」を考えるうえでとても大切なポイントです。ただ、学習スタイルや学習方法については、こうすれば必ずうまくいく」というものはありません。お子様によって、「効果的な学習スタイル」はさまざまです。例えば「学習場所」についても、家族がテレビを見ているリビングでも集中できるお子様もいれば、誰もいない静かな場所の方がはかどるお子様もいます。同じように「学習時間」も、起床後が一番集中できる、スポーツで体を動かした後の方がはかどる、学校から帰った後が一番効率的……とお子様によって異なるのです。まずは保護者様がお子様の様子を見て、「お子様に合った学習スタイル」を見つけていただきたいと思います。

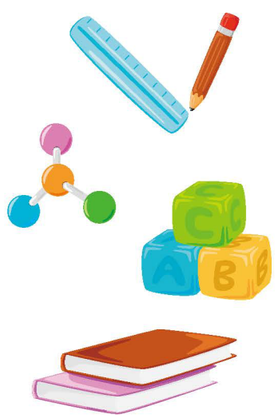
どんな覚え方が自分に合っているか

小学校の低学年時に身につけたい学習方法のなかに、「自分に合った覚え方」が挙げられます。近年の中学入試では「思考力」が重要だといわれていますが、考えるための土台となる「知識」はやはり必要です。知識を身につけていくためには、当然「覚える」ということが大切になってきます。ただ、この方法も千差万別です。

国語の漢字学習を例にとってみましょう。進学塾では低学年のときから「漢字テスト」が実施されますが、私は「漢字テスト」の一番の目的は「自分なりの知識学習の方法」を身につけることだと考えています。そもそも中学入試では、小学6年生の時点で習っていない漢字は出題されません。一つひとつの文字だけを見れば、進学塾に通っていない小6生でも書ける文字ばかりです。だからこそ、熟語になったときにどの漢字を使うのかがわかるかどうかという、ある意味「語句知識」といえるようなかたちで出題されているのです。ですから、「文字の形」を覚えるためだけの漢字学習をずっと続けていても、中学受験の国語の問題に対応できる力はなかなか身につきません。

漢字の学習というと、「漢字練習帳ノート」のマス目に決められた回数だけ漢字を書く、というスタイルがよくありますが、私はあまり効果的だと考えていません。「漢字は必ず10回書く」「間違えた漢字は5回書いて覚える」というような学習は、言い換えれば単純作業でしかありません。目的は「たくさん書く」ということではなく「覚える」ということですから、「マス目を埋める」という作業に終始してしまうと、目的をはき違えてしまうことにもなってしまいます。何回も書かなくても、「1回丁寧に書く」ことで覚えることができれば、さらに「見る」だけで覚えることができれば、より効率的な学習になるのではないでしょうか。

できれば早いタイミングで、自分にとって一番効果的かつ効率的な「覚え方」を身につけ、さらにその先の学習――「覚えた知識をどう使って問題を解くか」という学習に進んでもらいたいと考えています。



ブログ　福田 貴一の 四つ葉cafe　公開中！

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。
早稲田アカデミー 教育事業本部 副本部長　福田 貴一

著書に『中学受験　身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。
早稲田アカデミー　検索
左の二次元コードを読み込んでご確認ください
スマートフォンの対応